

組織目標評価報告書（令和6年度）

8

部局名：

学域名：

部局長名：

工学部

環境生命自然科学学域(工)

難波徳郎

目 標 ・ 取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
課題：今後の高等教育のあるべき姿の実現に向けた教育改革の推進 ・Target2025にも対応した、完成年度後のカリキュラム改善に向けて、入学前教育も含めて自己点検・評価を行う。 ・高校の新学習指導要領の下で学習した入学者への対応として、主体的・対話的な学び、分野横断的な学びを実現可能な教授法の導入を推進する。 ・ICTを積極的に活用し、共通科目のマスプロ化などによる教員の負担軽減を図る。 課題：18歳人口減少への対応として、新たな志願者層の確保 ・R6年度から他大学でも情報工学士の募集定員が拡大されることから、情報工学先進コースの志願者を確保するための取り組みを継続する。 ・女子枠についてはR7年度入試からの実施を目指し、年内に2年前予告を行えるよう、具体的な内容を検討する。 課題：国際通用性を持った教育プログラムの構築 ・高度な英語力とグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力の涵養を可能とする教育プログラムの構築を目指し、特別コースの設置を検討する。	(2-1) (3-1) (12-1) (2-2) (7-1) (4-1)	課題：今後の高等教育のあるべき姿の実現に向けた教育改革の推進 ・Target2025に対応した新カリキュラムを策定した。入学前教育では、新たにNetAcademyを利用した英語教育を導入した。今後は、岡大IDの早期発行でGmailやMoodleの利用が望まれる。 ・全学共通科目として新たに開講される「知の探研」の試行講義に、工学部の教員を派遣し、主体的・対話的な学びを実現可能な教授法を習得させた。 ・共通科目のマスプロ化は実現できなかった。12月にシンポジウムを開催し、ICTを活用した講義事例を教職員で共有した。 課題：18歳人口減少への対応として、新たな志願者層の確保 ・情報工学先進コースのHPの整備を進めるとともに、新着ニュースで活動を紹介した。 ・女子枠入試については、具体案は作成したものの、年度内に結論を出すことができなかった。他大学の動向を注視しながら、継続検討することになった。一方で、女子学生の増加に資する取り組みとして、女子高校生用の学部紹介パンフレット、動画、工学部が簡単にわかるWebページの作成を新たに行った。R7年度入学生の女性比率は17.8%に留まり、前年の20.5%から減少した。 課題：国際通用性を持った教育プログラムの構築 ・特別コースは教員の負担増につながるなどの意見が多く、断念した。代わりに、学部長裁量経費で補助している、学生の主体的活動の支援を充実させることとした。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
課題：小学生・中学生・高校生を対象とする工学教育支援 ・総合技術部の職員や学生に協力してもらい、小学生、中学生を対象とした出前実験を行い、理科好きの生徒を増やし、将来的な工学系の志願者増につなげる。 ・高校での出張講義の他に、探究学習・課題研究における助言・指導の機会を増やす。 ・高校生を対象としたプログラミングの講習会や出前授業を実施し、今後ますます重要性を増す情報教育の支援を行う。 課題：高校生の進路選択支援 ・高校生を対象とした進路相談会を開催し、生徒の疑問や悩みの解決に貢献する。 課題：リカレント教育、生涯教育による社会貢献 ・社会人対象の情報・セキュリティ講座や一般市民対象の公開講座を開催する。 課題：地域課題の解決支援 ・カーボンニュートラルなどの地域課題の実現に向けた、企業や自治体のアクションプランの策定や具体的な活動などに対して、教員を派遣するなどして積極的な支援を行う。 課題：国際交流の推進 ・学生が企画段階で参画する国際交流セミナーを開催し、グローバルな人材育成に貢献する。	(6-1) (1-1) (1-1) (7-1) (5-1)	課題：小学生・中学生・高校生を対象とする工学教育支援 ・総合技術部主催の出前実験、実験教室に支援を行った。中学生まで広げることができなかったが、保護者も参加することで理科好きの児童を増やす取り組みになった。 ・笠岡高校及び瀬戸高校の探究活動の助言・指導を今年度も行った。DXハイスクール事業に採択された倉敷南高校の活動支援に教員2名を派遣した。 ・中高校生を対象とした講習会や出前授業などで活用可能なIoTツールを工学部の学部生が主体となって開発した。 課題：高校生の進路選択支援 ・高校生対象のオンライン相談会を10回、研究室見学会を3回、女子生徒対象の座談会・見学会を1回開催した。卒業生が出身校15校を訪問しロールモデル紹介を行った。 課題：リカレント教育、生涯教育による社会貢献 ・社会人対象の情報・セキュリティ講座や一般市民対象の公開講座10件を開催した。 課題：地域課題の解決支援 ・自治体などの取組に工学部教員が委員等で参画し、活動支援を行った。 課題：国際交流の推進 ・留学生と日本人学生が参加する施設見学会を開催し、見学後の意見交換で交流を深めるとともに、学習や研究活動への意識を高めた。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
課題：学部改組に伴う旧学部の早期廃止 ・進級が遅れている旧学部学生への学修支援により、旧学部の早期廃止を目指す。 課題：学部改組に伴う組織的な管理運営体制の整備 ・予算管理など、両学部で異なるルールの擦り合わせを行う。 ・高騰する光熱水料へ対応しながら、教員に配分する運営費を維持するための方策を検討する。 ・環境理工学部で管理していた学内水循環施設の運用体制を工学部で構築する。 課題：情報工学先進コースの教育に必要な教員の確保と設備の整備 ・必要な教員数を確保するとともに、教員の居室と学年進行により増えていく情報工学分野の学生教育に必要な教室や機器などを整備する。 課題：女性教員割合の引き上げ ・公募による教員採用人事において、女性の応募者を増やす方策を検討する。 ・上位流用制度等を利用し女性教授を増やす。	(15-1) (12-1) (11-2) (11-1)	課題：学部改組に伴う旧学部の早期廃止 ・R6.4時点では旧工学部生107人、環境理工学部生25人が在籍していたが、R7.4時点ではそれぞれ40人、10人未満まで減る予定である。 課題：学部改組に伴う組織的な管理運営体制の整備 ・R6年度から新工学部での一括管理に移行した。コース(旧学科)事務補佐員の給与の財源が旧学部間で異なっていたが、R7年度には統一ルールで運用することになった。 ・運営費が前年度比マイナス4.6%配分となったため、旧学部の繰越金の一部を充てることで減額幅を抑制した。 ・環境理工学部で管理していた学内水循環施設の運営体制を工学部に移行した。 課題：情報工学先進コースの教育に必要な教員の確保と設備の整備 ・教員はR6年度に4名が着任し、R7.4にはさらに4名(うち1名は女性)が着任する。残り2名も進行中。教育・研究スペースの確保も進めたが、まだ完成形には至っていない。 課題：女性教員割合の引き上げ ・R5年度に工学部HPに新設した新任教員紹介ページに、女性教員は必ず掲載した。 ・工学系で上位流用制度を利用した女性教員はいなかったが、女性リーダー育成プログラムには座休取得中の教員を除き、全員が参加した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。